

古典紹介・解説

九成宮醴泉銘⑥

佐々木香流

九成宮醴泉銘を半年間学んできましたが、特徴、筆法などのコツを掴んだと思います。今一度整理してみますと、造形は縦長、胴を引き締め反りぎみ（背勢）、格調高い美しい楷書です。起筆、終筆、右払いなど一定の法則がありますので、丁寧に仕上げる事で品位も出ます。検定挑戦の方は沢山書く事で良い成果が出ます。頑張って仕上げて下さい。又、上級者の方は有名な楷書の書き分けが出来るか確認してみましょう。今後も課題として登場する事と思います。次回をお楽しみに！

蘭亭序⑥

高橋 素香

宋代以後も蘭亭序は搨本や臨本が重ねて作られ、また石に刻して拓本を作ることがさかんに行われました。

古来もつとも評価が高かったのは「定武本」で「蘭亭八柱帖」と称される搨本です。

六ヶ月間学んで来ました蘭亭序も最終回となりました。

書き慣れる楽しさ！

奥の深さ！

を感じられたことと思います。

また次回学習するときまで、それぞれのタンスの引き出しにしまっておいて下さいね！